HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	座長解題
Author(s)	出村, 克彦
Description	2008年度秋季大会シンポジウム共通論題「農業農村を支える多様な組織活動-農商工連携の取組み-」
Citation	フロンティア農業経済研究, 15(1), 2-3
Issue Date	2010-02-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62499
Type	other
File Information	KJ00006717864.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

〔フロンティア農業経済研究　第15巻第1号　2010.2〕

［座長解題］ 2008年度　秋季大会シンポジウム共通論題
「農業農村を支える多様な組織活動－農商工連携の取組み－」

北海道大学　**出　村　克　彦**

Common Theme, Diversified Organization Activities to Support Agriculture and Rural Areas: Efforts by Cooperation Among Agriculture, Commerce and Industry Chairperson's Address,

Katsuhiko Demura
Hokkaido University

ガット・ウルグアイラウンド時には経済界から農業は過保護である等の非常に大きな農業バッシングがありました。今問題となっている事故米、メラミンを含んだ牛乳の問題を考えますと、農業を大事にしないツケが今に回ってきたのではないでしょうか。

生命現象を通じて製品を作ることは非常にコストのかかることです。中国で作った安い農畜産物を輸入するのは、自動車の部品を日本に輸入して日本で使うこととは意味合いが違います。我々が直接口にする農畜産物を安全に口にするにはどうしてもコストがかかってしまいます。今回の問題はそのコストを国民が負担する覚悟が必要であるという警鐘になったのではないでしょうか

今日のテーマであります「農業・農村を支える多様的組織活動」に目を向けますと、我々は農業・農村を支える立場に立っています。以前ですと、農業・農村は経済的に弱い立場でしたので、そのような立場の人をどうやって支援していくのかが話の中心でしたが、現在では農業・農村が地域を支える、すなわち受動的態度から能動的態度への転換が求められています。

農業においては伝統的に、JA、試験場など多くの支援組織が農業を支えてきたということがあります。他の一次産業と比較しますと、多様で友好的な支援組織が存在すると言えるでしょう。これは、日本が伝統的に米を中心としてきた国ですので、農業が一次産業の中心としてすえられたことに起因していると考えられます。農業・農村を支える伝統的な支援組織に加え、最近では新たな支援組織も出現してきています。産学官、クラスター、農商工連携などの新たな働きかけを通じて、農業・農村を支える。あるいは、農業・農村の活動を通じて地域で構成する様々な組織が活性化していく。4年前からスタートした「農地・水・環境保全向上対策事業」を利用して、地域資源を維持していく動きが広がっています。今回のシンポジウムでは、この新しい農業・農村を支える活動がどうなっているのか、最近の動きを理解していきたいと考えています。

元アメリカ大統領ケネディが就任演説で「国家が何をしてくれるかではなく、我々が国家のために何ができるのか考えてほしい」というスピーチをしました。ここでは農業・農村を支える多様な支援組織の下で、どのように自分たちの農業活動を高めていくのかということと同時に、自分たちの農業が地域にどうやって貢献していけるのかという面で、これからの農業は単

なる支援される組織から、地域の中核となる組織に大いになりうると考えています。

今日は4つの報告をしていただくことになっています。

第1報告は北海学園大学の小田先生です。農業由来の環境問題が農業だけでなく地域の大きな問題となっています。今回対象となる津別町はグリーンツーリズム等を通じて道内外から多くの人が訪れるため、環境問題は地域の問題であるとともに、外に向けた対策でもあります。農業由来の環境問題への取り組みが地域の広範な組織の取り組みを通じて行われています。津別町がエコタウンという大きな目標を掲げて、活動を行っている様子を報告いただきたいと思います。

第2報告は秋田県立大学の宮入先生です。従来の農業振興は外部に委託したり、町村やJAが中心となって計画を立てて行っていました。今回の事例では、従来の支援組織に当事者である農業者がこれに加わって、さらにここに大学等の研究機関を加えて、自ら計画を立てて実施するという動きを紹介してもらいます。

第3報告は様々な支援組織が農業に対して様々な働きかけをしたときに、農業者はどのような行動をするのかについてです。もち米の里ふうれん特産館の取り組みです。もち米を中心としたビジネスに積極的に販売戦略を展開していく。農協の枠を飛び出して独自で何かをするということはやはり難しい現状の中で、農協の枠を飛び出しながらも農協と緊張感のある関係を維持してビジネスを展開している活動を堀江さんに報告いただきます。

クラスター活動は北欧を中心にして、農業がほかの様々な産業と結びついて、産業の協力も得るけれども、資源提供など農業も産業に様々な働きかけをして新しいビジネスを作っていこうというものです。クラスターには成功例もたくさんあります。今回は第4報告として、北海道科学技術総合振興センターの戸島さんに、食の産業クラスターではどのような取り組みが行われているのか報告いただきたいと思います。

今回はこの4つの柱を中心として農業・農村が支える、農業・農村を支える地域の様々な取り組み、活動をご報告いただこうと思います。

コメンテーターとして帯広畜産大学の金山紀久先生と根釧農試の岡田直樹さんに、有益なコメントをいただくことになっています。